

バカロレア幸福論

フランスの高校生に学ぶ哲学的思考のレッスン

坂本尚志著(星海社新書・994円)

毎日 2018. 3. 25.

て考える術を学ばなければなら
ないと訴える哲学書である。

例を二〇一一年出題の「孤独

のなかで幸福でいられるだろう
か」に取ってみよう。これに答

えるにはまず出題が「…は可能
か」を問う二者択一型の問題で

あることを見極め、次にどのよ
うなテーマかを分析する。キー

は幸福と孤独でこれを高校で学
習した哲学者の定義を踏まえつ

の披露を心がけると同時に哲学
論議の論理的配列にも気を配

る。前者の立場なら、孤独は主観
的なものだから孤独でも幸福で

あり得るとするカントをまず出
し、次いで孤独をポジティブに

考えるストア派、孤独のなかに
こそ完璧な幸福があるというル

ソーなどの例を挙げる。そうし
ておいてから、孤独での幸福も

最後にこうした検討を踏まえた
うえで、孤独のなかでの幸福も
可能だが、そこには他者や社会
との関係がないがために限界が
存在しているという結論を述べ
る。

さて、以上のような模範解答

を見て読者はどう感じるのであ
ろうか？ 高校生が本当にこん

なことが書けるかと疑問に思う
だろう。しかし、書けるのであ

る。考え方の「型」を学んでい
るから。あるいはこんな平凡

な結論でいいのかと思う人もい
るかもしれない。いいのである。

バカロレアで問われているのは
思想ではなく、考え方の「型」
の修得度だからである。

「型」があって、それが学校で
教えられているということとは、
われわれもその「型」を学ぶこ

とが可能だということですよ」
議論の渦中にある日本の教育
改革におおいに参考になる一

冊。

考え方の「型」を学ぶことは可能だ

時間四時間のうちに答えを出し
ているのである。

そんな奇跡のようなことが可
能なのだろうか？ 可能なので

ある。考えるための哲学的訓練
さえ積むならば。げんに、フラ

ンスの高校生は最終学年でこの
訓練を受けているのだ！

本書はバカロレア哲学試験の
「受験解説書」の体裁を取って、

幸福になるためには幸福につい

つ再定義し、両者の関係はいか
にどうかたちに展開を図る。

これが済んだら孤独のなかで
も実現できる幸福があるという

立場と、孤独のなかでの幸福に
は限界が存在する立場の二つを

検討するが、まず、どのように
展開するのか式次第(設計図)

を明示することが必要である。
次いで、二つの立場の検討に

進むのだが、ここでは学習成果

存在するが、そこには他者の不
在という限界があるのでと疑

問を呈し、もう一つの立場の検
討に入っていく。

すなわち、幸福も不幸も他者
との共感が不可欠というヒュー

ム、民衆全体の幸福を提起した
サンジュスト、最大多数の最大

幸福という原則を提唱したベン
サムなどを挙げて、他者や集団

との関係における幸福を論じ、